



イルカの空中散歩

第 143 号

AMX C/A 発行

今月の担当 坂本

C/A坂本が行く☆あなたのまち 熊本編



皆さま、こんにちは 日に日に寒さを感じる今日この頃です。
皆さまはお風邪など引かれてはいませんか？風邪にも負けず今日も
一日頑張りましょう(^^)イルカ号の窓からは紅葉が楽しめますよ

今回は熊本市中央区京町にある老舗醸造元池田屋醸造にて味噌造りを体験して来ました。

味噌造り教室は年始(今仕込むとちょうど年始になります)に頂く味噌造りの為近所の奥様方で賑わっていました。私が造ったのは麦麴と米麴の「合わせ味噌」です(*^_^*)他の方はリピーターが多く、米味噌や合わせ味噌にもる味を入れたり、様々なアレンジの味噌を造られていました

さてさて、味噌造り初体験の私は隣の奥様や先生に指導して頂きながら、まず大きなボウルに麦麴と米麴、塩を決められた分量入れ軽く混ぜ合わせます。



その後、蒸した大豆を入れ 20 回程こね合わせ、大豆の煮汁を入れ更に 60 回コネコネ。奥様方と「花嫁修業の勉強よ♥」と会話も手も弾み、麴と大豆は段々と味噌らしくなってきました。



その味噌を袋に詰めやすいように小さく分けて丸め、味噌を押し込み空気を抜きながら袋に詰めていきます。



袋に詰めたら更に空気抜きを行う為、何度もテーブルに味噌を入れた袋を叩き付け(日頃のストレス解消する場よ、と隣の奥様から助言(^^))を頂きました)密封し出来上がりです！



今回手造りした味噌はこれから約 3 カ月間発酵させた後頂けるそうです。

私は毎日味噌全体に旨味成分が行き渡るよう味噌の体位を移動させ、美味しい発酵味噌が出来のを楽しみに手をかけています(^_^)



味噌造り体験をした後は先生お手製のぜんざいを頂き、お店を後にしました。

その後京町から約 2 Km ほどの場所に位置する『夏目漱石内坪井旧居』まで散策して来ました。

この旧居は漱石が第五高等学校(現:熊本大学)の英語教師時代に暮らしていた場所です。

今は熊本市指定史跡となってますが庭が広く井戸もあることから、お茶会などに使用される事もあるそうです。また縁側に座って庭を眺めながら、漱石が俳句を読んでいたこともあり、今も尚俳句を読み訪れる方もいらっしゃるそうです。



私も少しだけ縁側に腰掛け、庭を眺めましたが、漱石もこの縁側で物思いに更けていたのかなぁと思うと感慨深いものがありました。



この他にも熊本には沢山の記念館が残っています。



左上から
『徳富記念館』
『小泉八雲旧居』
『横井小楠記念館』

是非皆さまもゆっくりと晩秋の旅に出掛けられてはいかがでしょう(^ - ^)何か新しい発見があるかもしれませんよ♥

❖お問合せ❖

味噌造り:池田屋醸造(名) TEL:096(352)0309
熊本市中央区京町 1-10-21

イルカ号エピソード特集



設立当初より可愛がられて参りましたイルカ号は来年2月に新しいデザインに変わる事となりました。そんなイルカ号と社員の思い出話をしばらくの間ご紹介していきたいと思っています。第1回は営業部の川崎と乗員部の谷本がお届けします。

空から見た故郷「あまくさ」

営業部 川崎茂雄



こんにちは。営業の川崎です。

私は2000年3月23日のAMX初就航のちょっと前に会社の拠点を熊本から天草空港に移転してきた1月から勤めています。もう会社では結構、古株の部類です。

出身は地元の五和町二江で今も住んでいます。

今をさかのぼること12年前、初就航前の2月か3月(記憶があいまいになっております。)社員の体験搭乗がありました。もともと小さい頃から揺れる物(船とかブランコとかもダメでした。)には全く弱く、なんで航空会社に入ったのか、今でもわからないのですがとにかく苦手です。

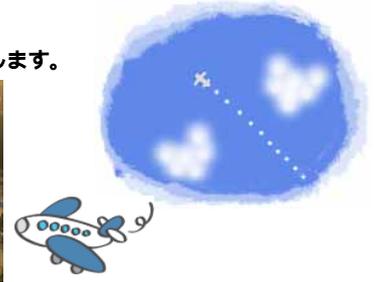
ですが、この体験搭乗だけは全く苦手意識がなく、ただ、「上から天草みてみたい!」という気持ちが強かったです。

この日は冬型で北風が吹いていたので、旧本渡市方面から五和町へ向けて離陸しました!

離陸直後、ガクガク上下に揺れたのですが、その後の眼下に広がる天草の島々の景色に感動しました!私の住んでいる二江も見えました!感動しすぎて「ウォー!ウォー!」と叫んでましたね。あの感動は今でも忘れられない思い出です。イルカ号、飛んでくれてありがとうございます!で、写真は3月23日の天草発福岡行きAMX101の出発です!記念すべき初便です。私も左端の作業服着て手を振ってます。離陸した時は、涙が出ました。(T_T)来年の2月にはデザインが変わってしまい残念ですが、今のイルカ号は、私にとってものすごく愛着があります。寂しいです。12年間、ホントに毎日1機で良く頑張ってくれました。AMX一番の働き者です。新しいデザインなっても、絶対に忘れません!

ご搭乗ありがとうございます。

乗員部・副操縦士、谷本と申します。



天草エアラインは平成12年に就航しました。

私ごとで恐縮ですが、これはちょうど私が民間の養成施設でパイロットになるために必要な資格を取得したころと重なります。

当時は今以上の就職難でした。コンビニのバイトにカメラマンのアシスタント、ホテルのフロント業務に英語の講師、、、飛行機とは何千マイルも離れた職業で毎日を繋いでいました。同期や後輩たちがひとり、またひとりと航空会社に採用されるのを複雑な心境で見守りながら過ごした期間は6年間。

あきらめが心の中を少しづつ支配していくのを感じていました。「もう自分は飛べないのかな・・・」

そう思いながらも、時おり眺めたパイロットの免許証は、私にわずかな光を与えてくれる希望のかけら、言い換えればお守りのようなものでした。そんな私を再び空へと連れて行ってくれたのが、天草エアラインのイルカ号だったのです。エンジンの音、、、やさしいエアコンの風、、、両手両足に感じる圧、、、そして迫ってくる滑走路。初めて自分の手でイルカ号を飛ばしたときの緊張感と感激は、今でもはっきりと覚えています。

それからずいぶんと時が経ち、お客さまの旅のお手伝いを始めて7年目を迎えます。長かったブランク期間を上回り、気付けば私のイルカ号での飛行時間は4000時間を越えました。かつて悔しながら眺めた「お守り」は色あせ、まもなくそれを「捨てる」こととなります。機長になるためには、新しい免許を取得する必要があるからです。長らく親しんだ大切なものを手放すときには、大好きなテレビドラマが最終回を迎えるときに似た寂しさと同時に、新しく始まるドラマを期待する高揚感があります。

来年の2月、天草エアラインのイルカ号は生まれ変わります。

その頃には私も、「新しいお守り」を手に入れているのかもしれない。



天草エアラインのホームページにて最新情報をお届けしています!

